

平成28年度 山梨県農村環境保全向上対策検討委員会会議録

平成28年10月26日

1 日時 平成28年10月26日（水） 午後2時～4時

2 場所 山梨県恩賜林記念館2階特別会議室

3 出席者（敬称略）

（委員） 島袋委員 深澤委員 渡辺委員 中原委員 保坂委員
仲澤委員 馬場委員

（事務局） 農村振興課：清水課長、田辺課長補佐、佐藤課長補佐、
古屋副主幹、加藤技師
山梨県多面的機能推進協議会：竹川事務局長

4 傍聴者の数 0人

5 会議次第

- (1) 開会
- (2) あいさつ
- (3) 議事
- (4) 閉会

6 会議に付した事案の案件

- (1) 平成27年度中山間地域等直接支払交付金の実施状況について【公開】
- (2) 平成27年度多面的機能支払交付金の実施状況について【公開】
- (3) 多面的機能支払交付金の中間評価について【非公開】

7 議事の概要

（座長） それでは、議題に入りたいと思います。

まず事務局から説明いただき、その後、委員の皆様方の御意見を賜りたいと思います。

それでは、(1)の「平成27年度中山間地域等直接支払交付金の実施状況について」を事務局より説明願います。

（事務局より説明）資料1による

（座長） どうもありがとうございました。

ご意見、ご質問があるでしょうか。

(委員) 減少率が前年比10%減であるが、今までより多く、ここに来て加速しているような気がする。これまでの対策の変わり目はどのように推移して来たか。

(事務局) 10%の減少は関東農政局管内の平均値とほぼ同じ。関東管内は全国でも減少率が特に高くなっている。

本県で一番協定が多かったのが、第1期対策最終年度であるH16年度の4,457haであったが、対策が変わるごとに概ね300haずつ減っている。

第3から第4期への移行時は、これより減少面積が多くなっている。

(委員) 減少の要因は、高齢化か。

(事務局) 辞めた協定からは、高齢化で農作業の継続が困難であること、協定運営のための事務が負担になっているという理由を聞いている。

(委員) 以前の会議でも、事務負担が問題になっていた。事務の簡素化が何とかならないか。

(委員) 交付金は税金をいただく形になるので、ある程度の事務負担は仕方が無い。事務等様式のひな形を作って提供するという話もあったと思うが。

(事務局) 多面的機能支払交付金と重複実施している協定も多いので、昨年度は、一緒に管理しやすい様式を説明会やHPで紹介した。

(委員) 協定を締結しやすい工夫をお願いしたい。

(事務局) 県としても、協定数を増加させる計画を立てている。

地域リーダー的な人材を育てる等、引き続き推進したい。

(座長) それでは、2番目の議題に入らせていただきます。

(2)の「平成27年度多面的機能支払交付金の実施状況について」を事務局より説明願います。

(事務局より説明) 資料2による

(座長) どうもありがとうございました。

ご意見、ご質問があるでしょうか。

(委員) 今後どのような推進を図っていくのか。

(事務局) 今年初めて優良地区の表彰をした。活動組織に優良活動が見える形で示していくことも目的。こういったことも進めながら制度の推進を図っていきたい。

(委員) 事例紹介された組織の活動は、地域活動としては充実した内容ではあるが、施策として農業振興とどのような関係があるのか。

(事務局) 活動組織のリーダーは、農業振興のために農業者や地域住民に自信を持たせることが重要と考えており、農業資源を活用したフットパス、地域食材を活用した加工品作り等を小学校や婦人会と協力して実施している。

(委員) 農業体験や地域交流を進めることが農業振興になるということか。

(事務局) 多面的機能支払では農家だけでなく地域住民も巻きこんだ中での活動を実施しているため、人とのつながりや地域コミュニティ醸成に有効な手段である。

(委員) 活動面積が全体に右肩上がりでは伸びているようだが、県として高齢化等の課題認識はどのようなところに持っているか。

(事務局) 高齢化や担い手不足は全国的な課題であるが、多面的機能を維持しながら農地を守り、新たな担い手が入り、荒廃化を防ぐことに対して大変有効な施策であるため、約24,000haの農地がある中で取組を進めている。

県、市町村、地域住民が一体となって活動を進めていただくよう、研修会等の機会を持って推進している。

(委員) 活動面積は伸びてはいるが、実施していない地域等偏りがある。

(事務局) 特に峡北地域での実施が多い。

中山間直払は実施しているが、多面的は実施していない市町村もあるが、実際は同様の活動をしている。

市町村によっては高齢化で地域リーダー等がないという問題もあるため、事務を請け負う者を検討する等、引き続き推進したい。

平成27年度と平成28年度を比較すると、4県域とも活動面積は増えている。

(委員) 中山間はやっているが多面的はやっていないというのはもったいない気がするが、やらない理由はあるのか。

(事務局) 中山間は地域指定や傾斜、下限面積等の要件はある反面、多面的は基本的にはどこでもできるため、重複実施は可能。

(委員) 中山間を実施できなかった地域を、多面的でカバーしているところもあるのか

(事務局) 昨年度、中山間の継続を断念した協定に対して、今後の耕作放棄地発生防止対策を確認したところ、地域住民と一緒に活動できる多面的機能支払交付金を活用していきたいという回答もいくつかいただいている。

※ 議事（3）多面的機能支払交付金の中間評価について は非公開

（座長） それでは、4つ目の「その他」ですが、事務局から何かございますか。

（事務局） 今後の当委員会の予定について説明

（座長） それでは、これで本日用意した議事が全て終了いたしました。

以上で議事を閉じたいと思います。

議事進行にご協力いただき、ありがとうございました。